

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2017年9月1日 168号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



第三次インターナショナル・ユース・プロジェクト

自然動物公園造成工事で奉仕作業したボランティアたち。



釣り体験の成果。レダ基地にて。



食堂の壁いっぱいに描いた「友愛の絵」。



図書室の壁をペンキ塗装。

バイア・ネグラでクリーンキャンペーン

きれいな魂はきれいな町に宿る！

南米、北米、韓国などから、直接アスンシオンに集つた十七名の青年たち。彼ら、第三次インターナショナル青年ボランティアチームは、ジョン・ゲーリング氏、高橋泰子さんらベテランに引率され、六月二十八日にバイア・ネグラ市に入り、七月三日までクリーンキャンペーンを中心とした奉仕活動を行いました。（本紙先号で写真を速報）

今回のモットーは、「清掃を通じて心も清め、神と人と万物を愛そう」と言うもの。チームは78個のゴミ入れ缶を作り、緑色に塗装して文字と絵を書き入れ、町中に設置。学校の食堂には、愛による一つの世界の絵（写真・中）を描き、図書室もきれいにペンキ塗装をしました。また隣接するディアアナの学校の子供たちとも楽しく交流しました。

その後、バイアネグラのカソリック教会の敷地に80本の植樹を地元の生徒たちと共に进行了、昼食会を持ち、また教会のミサにも参加しました。ボランティアたちの宿舎や、食事には海軍の施設を使わせてもらい、町ぐるみの大きな歓迎を受け、隊員と市民の双方が感動するプロジェクトになりました。

七月三日から七日まではレダ基地において農作業、原野開墾、養殖池での漁労、魚処理、釣り、乗馬などの体験学習と、自然動物公園造り、花壇造りなどの奉仕作業、およびレダ基地の各施設の訪問と見学をしました。

一行は、中田所長、佐野氏から講義を受け、スタッフと交流するとともに、実地で多くの歴史と理念を学び、充実した日々を過ごしました。こうして一人ひとりが多くの新たな喜びと感動と希望を抱いて、故郷の家族、学校、コミュニティーへと出発して行きました。

今レダ基地では Leda ahora



工事中の自然動物園。赤い橋が映える。



自然動物園に二つ目の橋を建設する。



完成した二つ目の橋。見かけより幅は広い。



シニアエコツアーのメンバーとレダ基地スタッフ。大食堂の庭にて。

写真下：米国から来たベージン君。大学で海洋環境学の修士号を取得した青年で、レダの養殖事業に大きな関心を持っています。7月26日から8月2日までレダ基地に滞在し、色々な体験をして行きました。



医師と医師とが姉妹結縁。



1ヘクタールのタロイモ田を造成。



仔豚を手にするベージン君。



小橋さんが作ったタロイモ大福餅。



エビの養殖場を準備。古い建物の基礎を利用。



佐藤さんが手の込んだ料理を作る。



目にも口にも美味しい巻き寿司。



個体数の密度が飽和するまで襲い、結局共食いを始める。左上の写真のように大型の観光客にはスタッフが供給され込みで、ピラニアステップが供されるが、味の

楽しい魚釣りのすすめ

先回は、「パンタナールの猛魚釣り」を紹介した。今回は、比較的手軽に釣りを楽しめる魚種について紹介しよう。



ピラニア 42cm

要。ハリを外すときは、指を食い切られないよう、細心の注意を要する。長軸のハリと細長いラジオペンチを使うと外しやすい。

ピラニアが多い場所では、餌を盗られ、ドラード、スルビなど、他の肉食魚を釣りにくくなるので、お邪魔魚として嫌われる。また板の上でも噛み付くという、話題性十分の危険な猛魚。実は臆病な魚だとも言われるが、だとすればなおさら危険だ。



ピラニア 42cm

目カラシン科



トライラ 34cm

いかにも貪欲そうな大きい口にギョロ目、ややグロテスクな顔つきが特徴。水草の陰にいることが多い。

トライラの姿が見えたなら、小さな肉片をつけたハリを目の前に垂らしてやる。間髪を入れず喰らいついてくるので、ゴボウ抜きにする。簡単に釣れすぎて、つまらないほどだ。



トヨ 28cm

アストロは、釣り上げてからも長く生きている。したがって、鮮度が落ちにくい。美味であることに加え、これは食用魚として有望な特長だ。レダ基地では、パクーの養殖に続き、アストロの養殖も手掛けるべく研究に着手している。

釣つたらうんと褒めて、調理してあげよう。スープも美味しいが、ヒラメやカレイと同様の煮付けがお奨め。

★アストロ Astro :スズキ目カラスズメ科
尾ビレの付け根の蛇の目が特徴。本流、

評価は人それぞれだ。刺身も脂肪分が低くてトロがないことから、やはり評価が分かれる。そもそも寄生虫の心配があるので、川魚の生食は控えよう。
ピラニアはどこにでも棲んでいて、どんな天候でも釣れる。当地でボウズとは、ピラニア以外、何を釣れなかつたという意味だ。



マングルボン＝88cm

とで、記録したら即時リリースする。



ペロ・デ・ペス 65cm

★ペロ・テ・ペス *Perro de pez*.. カラシン目 キノドン科
英語でドッグフイッシュョーというように、下あごにはこの長い歯を収納する

のひでしまうので、それ待つてもよい。
人にあげても喜ばれないし、餌と時間の損失になるので、ピラニアと並んで、あまり釣れて欲しくない魚だ。でも国外からのお客さんは、珍しい魚だからか、釣れるときこう喜んでくれる。（小田記）

私はまだトライラを食べたことがないが、先住民たちにとつては食用魚である。

